

# ほんがいっぱい よんでみよう!



## ねんせい ほん 3・4年生のための本

### ①『ドーナツのあなのはなし』

パット・ミラー／文 ヴィンセント・X・キルシュ／絵  
かねはらみずひと やく こうさいどう  
金原瑞人／訳 廣済堂あかつき 《Eキ》

ドーナツが生まれたのは、170年以上も前の船の中。コックの助手ハンソンが発明した「あなあきケーキ」は、それまでだれも見ることがないかたちをしていました。食べてみると、そのおいしさにびっくり!でも、なぜまんなかにあながあいているのでしょうか?



### ②『長くつ下のピッピ』

リンドグリーン／作 大塚勇三／訳 岩波書店 《Fリ》

ピッピは世界一つよくてゆかいなおんなの子。学校に行かず、ひとりでごたごた荘にすんでいる。木のぼりがとくいで、牛ももちあげられる力もち。サーカスに行けば、ぶたいにあがって綱わたり。おまわりさんと鬼ごっこしてもまげやしない。



ところざわしりつところざわとしょかん  
所沢市立所沢図書館 2020年

### ③『魔法のたいこと金の針』

まほう きん はり  
茂市久美子／作 こみねゆら／画 あかね書房 《Fモ》

平井さんは、腕のいい仕立て屋さん。ある日、お店のまえにたいこのぼちの落とし物がありました。持ち主は、つのを生やした男の子。次の日、男の子は練習でやぶれてしまった、たいこのかわをなおしてほしいと、平井さんにたのみにきました…。



### ④『物語 たくさんのお月さま』

ものがたり つき  
ジェームズ・サーバー／作 ルイス・スロボドキン／絵  
なかがわちひろ／訳 徳間書店 《AFサ》

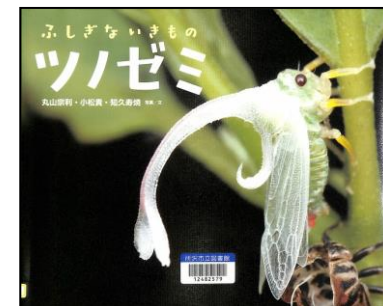
木いちごのタルトをたべすぎて、びょうきになってしまったレノアひめ。王さまが、なにがほしいかたずねると、ひめは月がほしいといいます。王さまは、家来たちに月をとってくるよういいますが、だれにもできません。そこで、お城の道化師にも聞いてみると…。



### ⑤『ふしぎないきもの ツノゼミ』

まるやまむねとし こまつたかし ちくとしあき しゃしん ぶん  
丸山宗利・小松貴・知久寿焼／写真・文 あかね書房 《48》

「ツノゼミ」は、セミとは別の虫なんだ。体はセミみただけど、頭には、ツノが生えている。ツノの形には、アリの乗せたようなものや、シカのツノや三日月みたいなものなど、いろいろあるよ。ほかにどんな形があるか、みてみよう!



## ⑥『本気でやれば、なんでもできる!?』

ジョン・ヨーマン／作 ケンティン・ブレイク／絵  
三原泉／訳 徳間書店 《Fヨ》

ビリーは、小学三年生。先生に、いっしょうけんめいがんばれば、できないことなんてひとつもないといわれて、なんでもできる気になった。ところが、友だちはバカにして、頭に角をはやせる?といいだした。思わずできるところたえてしまったビリーは…。



## ⑦『ワnda・ガアグ グリムのゆかいなおはなし』



ワnda・ガアグ／編・絵 松岡享子／訳  
のら書店 《M》

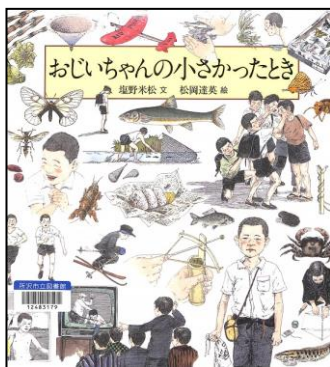
コッティは、ちょっとまぬけなおよめさん。だんなさんから、肉とキャベツのつけあわせが食べたいといわれ、生の肉をなべに入れて、畑のキャベツとつきあわせただって!そんなコッティがかつやくする「かしこいおよめさん」など、とびきりゆかいな昔話3つ。

## ⑧『おじいちゃんの小さかったとき』

しおのよねまつ／文 まつおかたつひで／絵 福音館書店 《38》

おじいちゃんが子どもだったときのお話をしてよ。おじいちゃんはどうなところで遊んだの?テレビはあったの?学校は好きだった?おやつは何を食べたの?今のぼくたちの暮らしとはずいぶんちがうんだね。

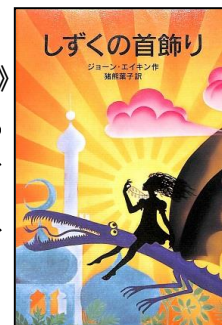
『おばあちゃんの小さかったとき』(おちとよこ／文 ながたはるみ／絵 福音館書店《38》)もあわせて読んでみよう。



## ⑨『しずく的首飾り』

ジョン・エイキン／作 猪熊葉子／訳 岩波書店 《Fエ》

北風の男を助けたお礼に、ジョーンズ夫婦はむすめ首飾りをもらった。きらきら光る雨粒が3つついていて、1年ごとに雨粒は増えていき、むすめが手をたたくと雨はやむようになった。ところが、それをうらやましく思った子が首飾りをとってしまい…。



## ⑩『奄美の森でカエルがないた』



まつはとしみつ／写真・文 アリス館 《48》

あたたかくて雨が多い奄美大島は、カエルたちの楽園だ。オットンガエルは、おじさんのくしゃみのような鳴き声の大きなカエル。「ピョピョピーピー」と鳴くカエルもいるよ。カエルたちはどうやって出会い、卵を産むのかな?そのひみつをのぞいてみよう!

## ⑪『空とぶ船と ゆかいな なかま』

バレリー・ゴルバチョフ／再話・絵 こだまともこ／訳 光村教育図書 《M》

「空とぶ船にのって、おしろまできたものを、王女とけっこんさせてやろう」王さまのおふれをきいて、たびにでたのは、「世界一のまぬけ」とよばれているわかものでした。たびのとちゅうでであったおじいさんから、空とぶ船の見つけかたをきいたわかものは…。



## ⑫『びりっかすの神さま』



おかだじゆん／作・絵 偕成社 《Fオ》

テストでいちばんの子は、いちばんまえのつくえ、びりは、いちばんうしろ。そんな四年一組に転入してきた始は、教室でふしぎな男をみた。その人は20cmぐらいで、くたびれた背広によれよれのネクタイ、おまけに小さなつばさがはえていた!